

平成 25 年 3 月 25 日

木津川市長 河井規子様

木津の文化財と緑を守る会  
会長 岩井照芳

### 仮称「木津城址公園」名称についての要望書

拝啓 早春の候貴殿にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は当会活動にご協力頂き厚く御礼申し上げます。

さて、木津の通称東山の山上にある山城<sup>やまじろ</sup>の遺跡名、「木津城跡」については、25 年ほど前から当会の主催する「城に関する講演会」や、「現地見学会」等において、本来の「木津城跡」の所在地は木津本町地域であり、間違った名称が付けられていると指摘してまいりました。

現在の研究では、東山の城跡の名称は状況的に考えてほぼ確実であると思われる候補名は史料に出てきますが、現時点ではその名称は確定されていません。しかし、東山の城跡が木津城跡でないことは確実で、このままでは間違って後世に伝わることになりかねません。

こういう現況の中、遺跡名だけでなく 1 月の広報「きづかわ」に「～木津城址公園にみんなで桜を植えよう～」との記事が掲載されていて、公園名は仮称ではあるが「木津城址公園」と呼ばれていることを始めて知りました。

正式公園名に「木津城址公園」と名付けば場所も名称も広く一般に周知され、間違った名称でもあたかも木津城跡であったかの如く信じ込み、広く周知されてしまえば今後変更が非常に困難となり取り返しがつかなくなります。

城跡の名称は大変重要で、何処の町でも城は町のシンボルとなっています。そのために、後世の人に正確な情報を残さねばならず、また木津や南山城の中世史にとって木津城は重要な位置を占める城だと考えています。

それゆえ、確実な名称を探し命名するか、またはこれまで伝承されてきた「城山」を公園名に付けることを望みます。間違っても仮称「木津城址公園」の名称を正式に「木津城址公園」とは名付けないよう強く要望致します。

## 参考資料

本当の木津城跡の場所は何処であったのか？

### 木津城の形態

文明 9 年（1477）10 月 13 日『大乘院寺社雑事記』

畠山義就に敗れ木津<sup>しぎょう</sup>執行は木津城<sup>しやき</sup>を自焼し没落する。

文明 9 年（1477）10 月 13 日『木津天神宮神事記録』

木津庄カマエヤフレ（構敗れ）候ウセ（失せ）候

木津城は惣構の城で木津庄も外掘りの内にあつたと考えられる。

木津の庄の中心地は大路村である。城は大路村付近一帯の旭住宅や南大路町・北大路町及び 1 丁目・2 丁目辺りが木津城の範囲であると考えられる。

城の東側を南北に通る大路道を南に行けば極楽橋からいずみホールに行く。

### 木津城の大きさ

永禄 11 年（1568）9 月 14 日『大乘院寺社雑事記』

<sup>ひらじろ</sup>平城で、三好政康や香西の兵士 3,000 人ほどが入城した城です。『多聞院』

この他に 1,500 人くらいの木津執行家の兵士がいるので相当大きな城であつたことが分かる。

### 木津城の位置

文明 7 年（1475）5 月 14 日 木津天神川原の合戦『大乘院日記目録』は別の史料では、木津城南口の合戦ともいう。『大内正弘判物案』

天神川原とは現在のいずみホール南側国道 163 号線の信号付近で、ここが木津城の南口（南方）である。北へ行けば祇園神社になり城が木津庄中心地の大路村一帯にあつたことが分かる。

文明 7 年（1475）5 月 15 日『大乘院寺社雑事記』木津の西 小寺口合戦に、

小寺口は八木家住宅の西側の道で木津川堤の交点で木津城（木津庄）から見て西側に当たる。

### 東山の城跡の名称と考えられる城名

文正 2 年（1467）5 月 21 日『大乘院寺社雑事記』

「一庄悉逃散、取上野山云々」

興福寺の六法・衆徒・国民が木津を攻めた時、木津氏らは木津城を含め木津の庄全てを放棄して逃げ去った。上野山も放棄していたので取った。

元龜 2 年（1571）10 月 15 日『尋憲記』

「松永山城等八木津之上之山二野陣也」 木津氏が松永久秀方から將軍足利義昭方に寝返つたので木津城に攻めてきて、「三好義継、松永久秀は木津之上之山二野陣也」

東山の城跡は上野山か上之山の名称が最も有力である。